

標 題 まずは知ってもらおう！担い手育成協定農場と連携した研修会を開催

(ダイジェスト)

10月27日（木）、次世代の担い手として期待される農林高校生、農林大学校生を対象に雲南地域の大規模畜産農場の視察及び意見交換会を開催しました。

当日は19名の学生が参加し、普段目にすることが少ない農場の様子や農場主や若手従業員の生の声を聞くことで、将来畜産現場で働く自身のイメージを抱く研修会となりました。

雲南地域（雲南市、奥出雲町、飯南町）は、古くから畜産業が盛んであり、現在も県内で最も畜産農家戸数が多い地域です。

しかし他地域と同様、小規模農場は高齢化に伴い戸数・頭数とも漸減し、産地を支える大規模農場も従業員確保に苦慮している状況にある等、雲南地域で自営または雇用就農を志す、新たな担い手の確保が喫緊の課題となっています。

こうした状況の背景には、雲南地域には農畜産業を学ぶ農業学校がなく、農業系の学校に進学する学生が少ないことで、卒業後この地域での就農を志す者が少ないことも一因と考えられます。

そこで、新たな担い手確保の取組の一つとして、雲南地域で大規模に畜産経営を行い、県や役場等と担い手育成協定を締結している（農）中国牧場、（株）来島牧場の2農場を会場に、県内の農林高校、農業大学校の学生を対象にした視察及び意見交換会を開催しました。

当日は、松江農林高等学校と島根県立農林大学校の学生19名が参加し、それぞれの農場を視察後、農場主と若手従業員との意見交換を行いました。意見交換では、各農場主から経営理念や従業員に自身で考えながら主体的に仕事をしてもらおう雰囲気づくりを心掛けていること等を伝えられ、若手従業員からは学生に近い目線で農場に就職したきっかけや職場の雰囲気を話される等、学生にとって普段触れることが少ない、大規模農場を知る貴重な場となりました。

後日、引率した先生から、学生が今回視察した牧場で将来働いてみたいと話していたことを伝えられ、研修会の目的であった、雲南地域の農畜産業を知ってもらう機会として意義あるものになったと感じたところです。

農業部では、学生を対象とした今回のような研修会を継続的に企画するとともに、産地ビジョンの策定や就農パッケージの作成等を関係機関と連携して行うことで、産地の維持・拡大を推進していくこととしています。



学生と農場との意見交換



農場の飼養管理を視察